

2007年12月

報道関係各位

東京都中央区築地2丁目8番9号
レコード会館6F
社団法人 日本オーディオ協会
会長 鹿井 信雄

2008年 年頭所感

デジタル音楽新時代に向けて

新年おめでとうございます。

エジソンが錫箔巻き蝋管に音の記録を実現してから昨年12月に130年周年を迎えました。

当初の約半世紀には技術方式の開発競争があり、結果として次ぐ半世紀には円盤型がモノラルのSPレコードとしてデファクト・スタンダードの座を獲得し、次いでLPステレオ・レコード時代には世界規格化が実現し大きく繁栄、凡そ100年間にわたってアナログ技術によって普及が進みました。

その後は、情報技術の発達と共にデジタルPCM化時代に入り、コンパクト・ディスクが1982年に発売開始され、高音質と取扱いの利便性から一世を画して繁栄時代を築き、昨年、25周年目を迎えました。これを記念して昨12月6日の「音の日」に「CD25周年記念シンポジウム」を開催し、デジタル音楽が歩んだ四半世紀と将来に向けて識者から示唆に富んだお話を聞く機会を持たせていただきました。

昨今は高音質ワンビット記録のSACDや、PCMのDVDオーディオの出現で高品位な5.1chサラウンド・サウンドが話題になり、もう一方で、圧縮音源の音質向上や画像とのリップシンクなどが新たに課題になってきています。

日本オーディオ協会はデジタル音楽四半世紀につづく新時代に向けて、今年も「よい音のある生活の土壌づくり」を念頭に普及と啓蒙を進めたいと考えております。



会長 鹿井信雄